

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程を重視する。

用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，歴史的な見方・考え方を働かせながら，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，課題の解決を視野に入れて構想したりする力を求める。『歴史総合，日本史探究』及び『歴史総合，世界史探究』では，「歴史総合」で学習したことから，それを基に「日本史探究」又は「世界史探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解を伴った知識を活用して，例えば，教科書等で扱われていない資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や，仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問

『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」の第2問と同じ。

第2問

国家の形成や発展の過程で生じる対立やその影響をテーマとした。Aでは，古代ローマにおける「内乱の一世紀」に関する資料を素材とし，ローマ支配の拡大によって生じた対立について，世界史で学んできた知識と資料から読み取った内容とを関連付けて考察する力を問うた。Bでは，百年戦争を素材とし，中世における国家間の対立とその帰結について，会話文の内容を理解しつつ，世界史で学んだ知識を活用して考察する力を問うた。Cでは，イギリスが提示した南アジアの独立案に関する概念図を示すスライドの内容と，会話文から読み取れる情報とを組み合わせることで，国家の独立に関する概念的理解を問うた。いずれの小問についても，正答率・識別力の点で妥当であった。

第3問

世界史上における女性の社会的地位の変遷について探究する問題とした。Aでは，魔女裁判を取り上げ，基礎的知識や資料との整合性を考えさせることができるかどうかを問うた。Bでは，17世紀の東南アジアの女性君主に関するメモを素材とし，アチェにおける交易と権力構造の関係性について取り上げ，仮説の根拠になると考えられる事象について，知識と，メモから読み取った内容とを関連付けて考察する力を問うた。Cでは，19世紀のアメリカ合衆国における女性の社会進出を取り上げ，女性参政権獲得の過程と当時の国内外の事情について考えさせる問題とした。それぞれの小問について，おおむね適正な正答率であったと思料する。

第4問

「世界史上の様々な交易・貿易」をテーマとした。Aでは，地図と資料を基に，張騫が皇帝に勧めた大夏国とのルートとその理由について推論することができるかどうかを問うた。Bは，アフリカの奴隷貿易について表と資料から読み取った情報と既習内容の知識とを結びつけて類推する力を問い，類推の根拠として，論理的に適切な歴史的な事象を提示させる問題である。Cは，グラフとその内容と背景についてまとめたメモを素材として，ロシア帝国と清朝の貿易の特徴について考察する力を問うた。いずれの小問についても極端な解答結果は出でならず，

正答率・識別力の点で妥当であった。

第5問

「人々が直面した困難や危機」をテーマとし、問1は16～17世紀のユーラシア西部、問2は17世紀の清朝、問3は19世紀のポーランド、問4は第二次世界大戦後のフランスにおける困難に着目した上で、最後に問5で類型化と比較を行う構成となっている。正答率・識別力とも、おおむね妥当と考えられる。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

第1問

『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」の第2問と同じ。

第2問

Aでは、問2について、読み取った情報を基に、知識を踏まえて事象同士の関連性を考察する思考力・判断力・表現力等を問う良問との評価を得た。引き続き、問題作成にあたり工夫を進めていきたい。Bでは、問3は地図の読み取り問題で、問5は百年戦争終結の事例を参考に、他の戦争の終結理由を考える問題であるが、ともに知識や技能、思考力・判断力・表現力等を問う良問との評価を受けた。このような形式の問題の作問へ今後もチャレンジしていきたい。Cの問7は、インド以外の3つの国が分類化されている要素について考察し、インドの分類について判断する思考力・判断力・表現力等を問う良問との評価を受けた。特に、問題の構成が優れており、歴史的事象の類似・差異に着目する学び方を活用している点で高い評価を受けた。今後も、思考力や判断力・表現力等を問えるように、スライドや会話を積極的に活用し、出題形式を工夫していきたい。

第3問

Aの問2は2つの資料とレポートから読み取った情報と16世紀ヨーロッパの包括的理解を関連付けて、魔女とされた女性について考察することを求める問題と評価された。今後も資料をふまえ、思考力・判断力・表現力等を総合的に問う出題を目指していきたい。Bでは、問4が思考力・判断力・表現力等を問う良問との評価を受け、さらに、仮説の根拠になると考えられる事象として、複数の視点を挙げたところに多面的・多角的な見方を促す工夫がみられるとの指摘も受けた。今後も、受験者に多面的・多角的な見方を促すような工夫をしていきたい。Cの問6については「知識を問う問題」への偏重の指摘があった。今後は単なる知識確認に留まらない、工夫に努めたい。

第4問

Aでは、問2が、文字資料と組み合わせた地図の使い方と、教科書等で扱われていない資料から得られる情報と授業で学んだ知識を関連付けた良問との評価を受けた。地図と資料とを組み合わせて、思考力・判断力・表現力等を問う出題形式については、今後も積極的に活用していきたい。Bの問3は表の統計を基に奴隷貿易に影響を与えた歴史的事象について考察させる問題、問4は資料と会話文から読み取った情報を踏まえ、奴隷貿易と奴隷制についての概念的 understanding を基に、イギリスの姿勢について考察する問題と評価されている。いずれも思考力・判断力・表現力等を問う良問、さらに、生徒の既有知識に対して認知的葛藤を引き起こし、歴史を再構築させるような問題と評価されている。今後も、複数の資料に基づいて思考力・判断力・表現力等を広く問えるような出題を工夫したい。Cの問5では、IIが遼東半島に関する内容となっており、領土問題を中央アジアにおけるロシアと清の交渉に限定するとより良い問題になり得たのではないかと指摘された。出題意図としては、ロシア帝国と清朝との関係を広い空間

的視野から認識することを目指したが、出題形式を含めて、改善に努めたい。

第5問

大問全体の構成について、資料から読み取れることを抽象化し、4つの探究事例との類似性を判断させる類推問題が設定され、歴史の学び方が問われたとの評価を受けた。こうした問題形式は、今後も継続させていきたい。また、問1は、基礎知識を踏まえ、歴史資料に書かれていることと書かれていないこととを判断することの重要性を再確認させるものであった。問2について、知識・技能を問う良問との評価を受けた。ただし、資料読み取りの難易度についての工夫は必要かもしれない。問3では、パネルの構成について一定の評価を受けることができた。教科書には載らない一次資料を踏まえた設問を心掛けたが、今後もこうした取組を積極的に続けていきたい。問4では、ある歴史的事象に対して、異なった二つの立場での視点を、論理的な妥当性を基に、類推することができるかどうかを問う、思考力・判断力・表現力等を問う良問との評価を得た。問5は、受験者にとってなじみのある「アメリカ独立宣言」の読み取りから、歴史的事象を抽象化して、別の歴史的事象との類似点を探る類推を求める問題として、思考力・判断力・表現力等を問う良問、との評価を得ており、今後も、分量が多くなりすぎないように留意しつつ、こういった問題の出題に努めたい。

4 ま と め

以上、問題作成部会として、各問の出題意図と、設問に対して寄せられた意見・評価に対する見解を述べてきた。最後に総合的な意見・評価についての問題作成部会の見解を述べ、問題作成に当たった際の留意点についてまとめておきたい。

今年度は『歴史総合、世界史探究』初年度の共通テストであり、作題に際しては、歴史的な諸事象を、地図や図像、グラフ、表など、様々な情報から探究的に読み取り、世界史の大きな枠組みの中に位置付けていく思考を促す設問の作成を追求する中で、「歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察し、概念的に理解しているかを問う問題が、様々な工夫された様式で出題されていた」との評価を得ることができた。

今回の作題にあたって特に心掛けたのは、以下の点である。

世界史探究の目標に照らして、大問ごとの探究的な学習テーマを設定し、探究活動を通して、それらを比較検討して概念的理解へと昇華していくことを目指した。また、多様な資料によって示される多様な情報を読み取ることで正答に至る設問を設定した。歴史的な見方・考え方を働かせて読み取る技能は、世界史探究の授業の中でも習熟が求められているものである。いずれの点も、好意的な評価を得ており、ある程度の水準には到達したと考えるが、今後も更なる工夫を継続していきたい。

分量に対する配慮は、大きな課題であったが、この点についても、「分量は試験時間に見合った適切なもの」との評価を得ており、おおむね適正であったと考えられる。

はじめに述べたように、今回は『歴史総合、世界史探究』の初年度であり、どのような作題を通して世界史探究の目標に近づくことができるのか、模索の連続であった。今後も引き続き、常に歴史の大きな枠組みを意識しつつ、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を総合的に問うことのできる問題作成に留意していきたい。